

2023年度第1四半期決算説明会 質疑応答（要旨）

- Q1：** 第1四半期は、見通しとの比較で、どういう進捗なのかを教えてください。
- A1：** 事業ごとで見ると、想定よりも良いところと悪いところはあるが、全体としてはほぼ計画通りの進捗と認識している。
- Q2：** Opal は、第1四半期で特別損失を計上しているが、今後の業績に何か影響するのか。
- A2：** Opal についてもおおむね予定通りの進捗です。
- Q3：** Opal とオーストラリア環境当局（EPA）との間で、パルプの設備を3基から2基にするという話があるようだが、これは計画に含まれているという理解で良いか。
- A3：** はい。現在、話し合いをしているところ。遅滞なく進めていきたいと思っている。
- Q4：** 紙・板紙事業の営業利益は、第1四半期で2億円の黒字に浮上したが、紙・板紙それぞれ収益性はきちんと戻ってきているのか。
- A4：** どちらも増益という基調になっている。抄紙機を停機して固定費を圧縮しているので全体的に効率性が上がっている。
- Q5：** 国内の生活関連事業は、パッケージと家庭紙・ヘルスケアで増益、ケミカルで減益ということだが、それぞれの事業の第1四半期の状況をどう評価しているのか。
- A5：** いずれの事業も原燃料価格高騰による影響と製品の価格修正の寄与があった。ケミカルは機能性フィルムや機能性コーティング樹脂などの販売数量減少の影響を受けて減益になった。
- Q6：** Opal は、第1四半期で特別損失が発生しているが、第2四半期以降も合理化などに関するものなどもう少し特別損失が出てくる可能性があるかと見ておいたほうが良いか。
- A6：** 第1四半期で特別損失49億円を計上しているが、まだ終わりではない。今後、追加で特別損失が出てくると思う。また、M2抄紙機の停機に伴う固定資産の減損損失12億円も第2四半期で発生する見込み。

以上